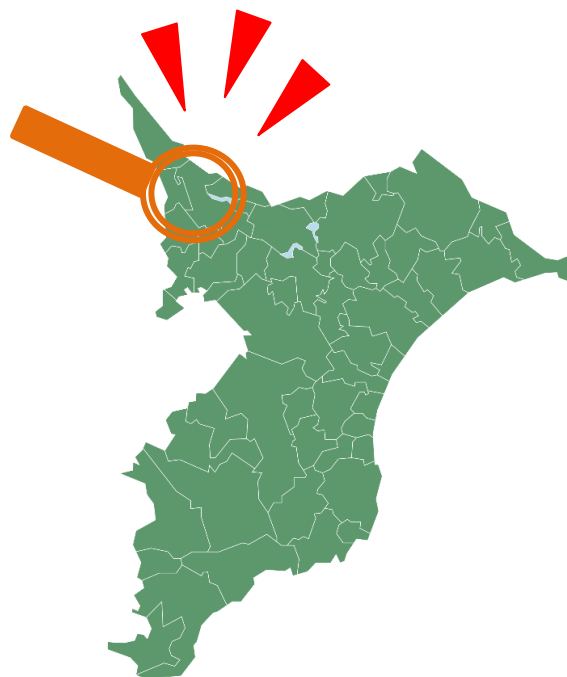


2023・6

柏の景気情報

令和5（2023）年6月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

T E L : 04-7162-3305

F A X : 04-7162-3323

U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E - m a i l : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和5年6月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

回答期間: 令和5年6月20日～令和5年7月3日 調査対象: 柏市内143事業所及び組合にヒアリング、回答数93

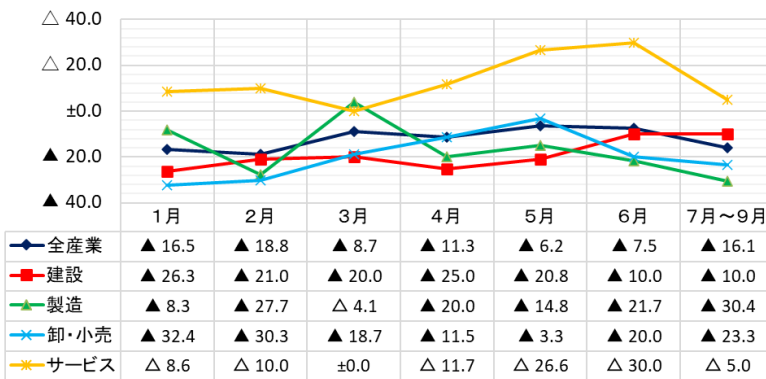
価格高騰に対する価格転嫁が追い付かず…。経済活動回復に伴う需要増に対し、人手不足で苦慮する状況変わらず…

6月の全産業合計のD I 値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲7.5（前月水準▲6.2）となり、マイナス幅が1.3ポイント拡大した。

建設業は、徐々に回復傾向であるが、資材高騰による負担増で今後の見通しは不透明な部分が多い。卸小売やサービス業では、客足が徐々に戻ってきている一方で、物価高の影響から消費者の節約志向が強く、その結果、買い控えが生じ業況は停滞気味。製造業では、価格転嫁の見通し厳しく、先行き不安の声が聞かれる。

すべての業種に共通して、慢性的な人手不足は課題となっており、原材料・エネルギー価格高騰の影響は大きく収益面で苦戦している。

柏の景気情報・産業別業況DI



★業種別の動向

前月と比べたD I 値の動き



改善



横ばい

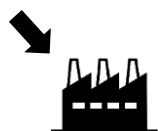


悪化



建設業

「原材料高騰、生コンプラントが忙しく1ヶ月先までいっぱいである」（一般土木建築工事）、「ボーナスシーズン到来で、畳工事の受注増」（畳工事請負・畳製造販売）、「これまで大手や専門業者が受注していた案件が施工業者へ直接発注の流れがあり、コロナ前と後で変化している。材料費高騰による負担が大きく、大手に発注すると工事価格が騰れ上がることを懸念されているようにも感じる。今年10月に石綿建材含有の事前調査の義務化が本格化するが、調査結果の報告は資格を取得している会社でなければできないなどの条件があるため、より負担がかかることが見込まれ今後注視する必要がある」（塗装工事）



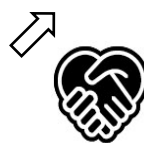
製造業

「電気料金や原材料費の急激な値上げに対する価格転嫁が遅れて収益圧迫。迅速な値上げを指示するが、客先によっては認めてもらうのに難航。インボイスや電子帳簿保存法への対応でコストアップになり、管理部門を含めた会社全体の生産性の更なる向上が不可欠」（自動車付属品製造）、「受注は堅調だが、単価の上昇が止まらない状況で利益が減少」（その他の機械・同部品製造）、「コロナ5類への引き下げ、同業他社の秋の値上げ発表の影響もあり、国内需要が高まってきた。輸出も好調であり、製造数量も大幅に増加し人手不足が懸念される」（酒類製造業）「仕入・電力ともに高騰し利益を圧迫。CO2削減は急務など問題が山積み」（金属素形材製品製造）



卸・小売業

「イベント等への客足も回復傾向。夏休みシーズン突入で人の移動が活発になるため、需要の取り込みに努める」（大型小売店）、「原材料高騰に伴うテナント収支の圧迫、小売りをはじめとしたサービス業の人手不足継続、外出機運の高まりに伴う消費動向の変化による業況改善の停滞」（その他の各種商品小売）、「初夏物の動向は良いが、食品は価格に非常に敏感。行動制限がなくなった母の日と同様、父の日も宅配が減少した」（大型小売店）、「アパレル、雑貨、旅行関連は継続して堅調に推移。度重なる値上げの影響もあり、カフェや職雑貨関連は鈍化傾向」（百貨店）「継続的な原材料の値上げにより、厳しい状況が続いている」（洋菓子店）



サービス業

「資材や建築費の高騰、不動産価格の上昇等により、一般顧客からの問い合わせが減少。それにより、売買件数も減少し全体として低調」（不動産管理業）、「コロナ禍ではオンラインサービス中心であったが、5類移行後は対面型サービス中心に戻した」（専門・技術サービス）、「制限なしによる外出増加で売上は戻りつつある。この需要増を逃したくないため人材確保を進めているが、厳しい状況が続いている」（ホテル）「サービス業の人手不足が深刻」（日本料理）、「国の規制緩和や留学生の受入政策が改善されれば、業界全体として景況は上昇すると思う」（専修学校）

★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI-LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲7.5に対し、「CCI-LOBO」が▲8.9で、柏のほうがマイナス幅が1.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図	 特に好調 DI ≥ 50	 好調 50 > DI ≥ 25	 まあまあ 25 > DI ≥ 0	 不振 0 > DI ≥ ▲25	 極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 7.5	 ▲ 10.0	 ▲ 21.7	 ▲ 20.0	 30.0
CCI-LOBO	 ▲ 8.9	 ▲ 17.8	 ▲ 8.8	 ▲ 16.7	 4.7
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ± 0.0	 ▲ 10.0	 ▲ 34.7	 13.3	 30.0
CCI-LOBO	 4.0	 ▲ 15.6	 13.3	 ▲ 4.9	 15.0
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 11.8	 ▲ 15.0	 ▲ 39.1	 ▲ 10.0	 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 14.1	 ▲ 22.2	 ▲ 14.0	 ▲ 17.6	 ▲ 6.1
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 62.3	 ▲ 40.0	 ▲ 78.2	 ▲ 76.6	 ▲ 45.0
CCI-LOBO	 ▲ 69.4	 ▲ 74.1	 ▲ 69.6	 ▲ 71.3	 ▲ 66.0
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 18.2	 35.0	 ▲ 8.6	 16.6	 35.0
CCI-LOBO	 20.9	 30.0	 12.7	 16.2	 29.9
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 10.7	 ▲ 10.0	 ▲ 17.3	 ▲ 23.3	 15.0
CCI-LOBO	 ▲ 12.3	 ▲ 8.8	 ▲ 13.3	 ▲ 18.4	 ▲ 10.0

CCI-LOBO

商工会議所早期景気観測(6月速報)

調査期間：2023年6月15日～21日

調査対象：全国の329商工会議所が2,511企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、コスト増に消費意欲の一服が重なり悪化。先行きは、長期化する人手不足や物価高で慎重な見

方

6月の全産業合計の業況DIは、▲8.9と前月から▲2.7ポイントの悪化。

サービス業では、飲食・宿泊業等で需要回復は継続する一方、深刻な人手不足に伴う受注機会の損失で、業況は悪化した。また、小売業では、物価高により消費者の日用品等の買い控えが継続しており、スーパー等を中心に悪化した。卸売業でも、梱包資材価格の高止まりに加え、小売業・サービス業からの引き合い減少で悪化した。建設業・製造業では、設備投資需要が堅調に推移する一方、度重なるコスト増に価格転嫁が追いついておらず、横ばいに留まった。原材料・エネルギー価格の高騰や人材確保に向けた賃上げ等のコスト増加が継続する中、コロナ禍からの挽回消費にも一服感が見られ、中小企業の業況は

悪化に転じた。

先行きについては、先行き見通しDIが▲10.2（今月比▲1.3ポイント）と悪化を見込む。

インバウンド・国内観光需要の回復や、企業の設備投資の増加等、経済活動のさらなる改善が期待される。一方で、原材料・エネルギー価格の高騰によるコスト負担増や人手不足への対応等は長期化しており、経営の足かせとなっている。また、価格転嫁実施後に受注・販売数量の減少が生じたとの声もあり、中小企業の経営課題は多様化し、慎重な見方が続いている。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業、製造業は横ばい、卸売業、小売業、サービス業は悪化した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「公共工事の件数は、自社の対応可能な件数を上回る水準で推移している。自社の受注数を増やすため、人材確保に努めているが、採用等にかかるコストが重く、収益を圧迫している」（管工事業）

「2024年問題に向け、働き方改革に取り組んでいる。人手不足は受注競争に大きく影響するが、対応は難航している」（一般工事業）

【製造業】「価格転嫁を取引先から受け入れてもらえた。しかし、価格改定後は取引先からの受注数が減少しており、継続する原材料・エネルギー価格の増加に対し、都度の値上げを実施したいところだが、足踏みせざるを得ない状況である」（調味料製造業）

「5類移行後、対面や試飲など営業方法も多様化し、売上は増加基調。一方、コスト増は続いており、採算は横ばいである」（茶・コーヒー製造業）

【卸売業】「仕入れ価格の上昇に伴う価格転嫁が難航している。加えて賃上げの圧力もあり非常に苦しい状況」（再生資源卸売業）

る悪天候の影響で、夏野菜が十分に生育しておらず、供給量が減少したことで生鮮食品の価格が高騰。商品価格の負担に加え、輸送費等も増加するため、収益を圧迫している」（農畜産水産物卸売業）

水産物卸売業

【小売業】「5類移行に伴う人流回復により、化粧品・トランプ用品・衣料品など、外出時に使用するものへと売れ行きがシフトしている」（百貨店）

「物価高騰や電気代・ガス代の高止まりにより、消費者の買い控えが進んでいる。価格転嫁が進み、販売価格は上昇しているものの、客数・購入点数がともに減少しているため、売上は横ばい。今後のさらなる個人消費の低下で売上の悪化が懸念される」（総合スーパー）

【サービス業】「顧客の店内利用・テイクアウト・デリバリーともに増加傾向であるが、それに対応する人材の確保が難しい状況である。業務効率化を図るべく、補助金活用等も視野に入れた設備投資を計画している」（飲食店）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
1月	▲18.4	▲25.1	▲16.9	▲17.3	▲27.1	▲8.8
2月	▲19.4	▲31.9	▲18.4	▲16.4	▲25.9	▲8.6
3月	▲14.8	▲24.5	▲18.9	▲22.4	▲19.5	△2.8
4月	▲11.1	▲23.1	▲13.9	▲15.0	▲15.9	△5.6
5月	▲6.2	▲17.0	▲9.2	▲11.0	▲13.8	△11.9
6月	▲8.9	▲17.8	▲8.8	▲13.2	▲16.7	△4.7
見通し	▲10.2	▲14.7	▲12.3	▲15.6	▲15.9	△1.8

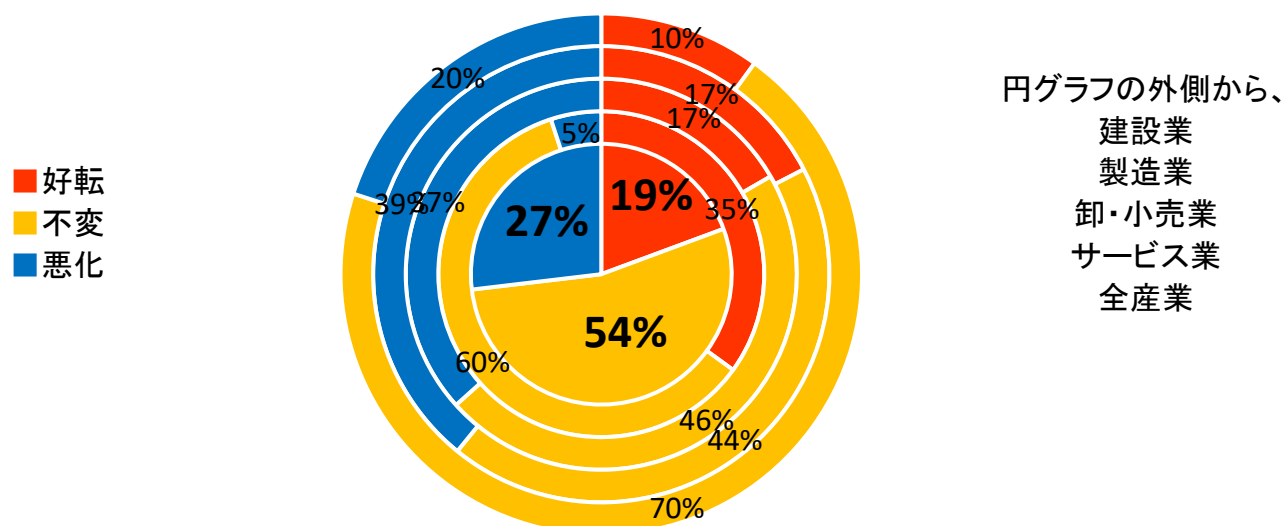
保できず、対応に苦慮している」（一般乗用旅客自動車運送業）

令和5年（2023年）6月の動向

【業況について】

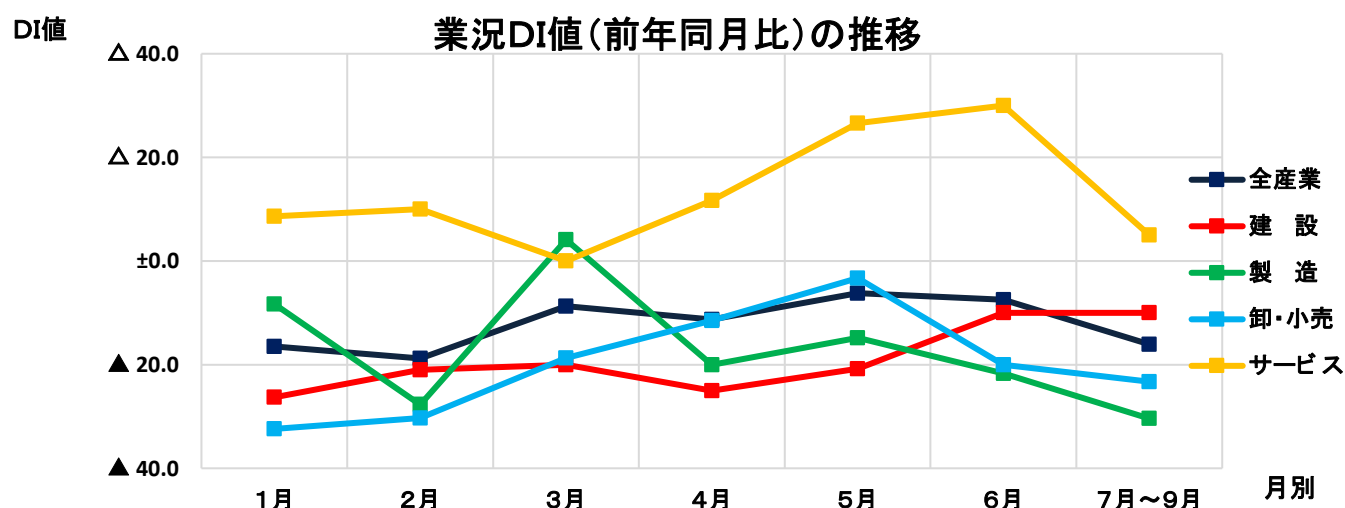
- 6月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲7.5（前月水準▲6.2）となり、マイナス幅が1.3ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月（7月から9月）の先行き見通しについては、全産業では、▲16.1（前月水準▲1.0）となり、マイナス幅が15.1ポイント拡大する見通しである。

前年同月と比較した今月の業況について



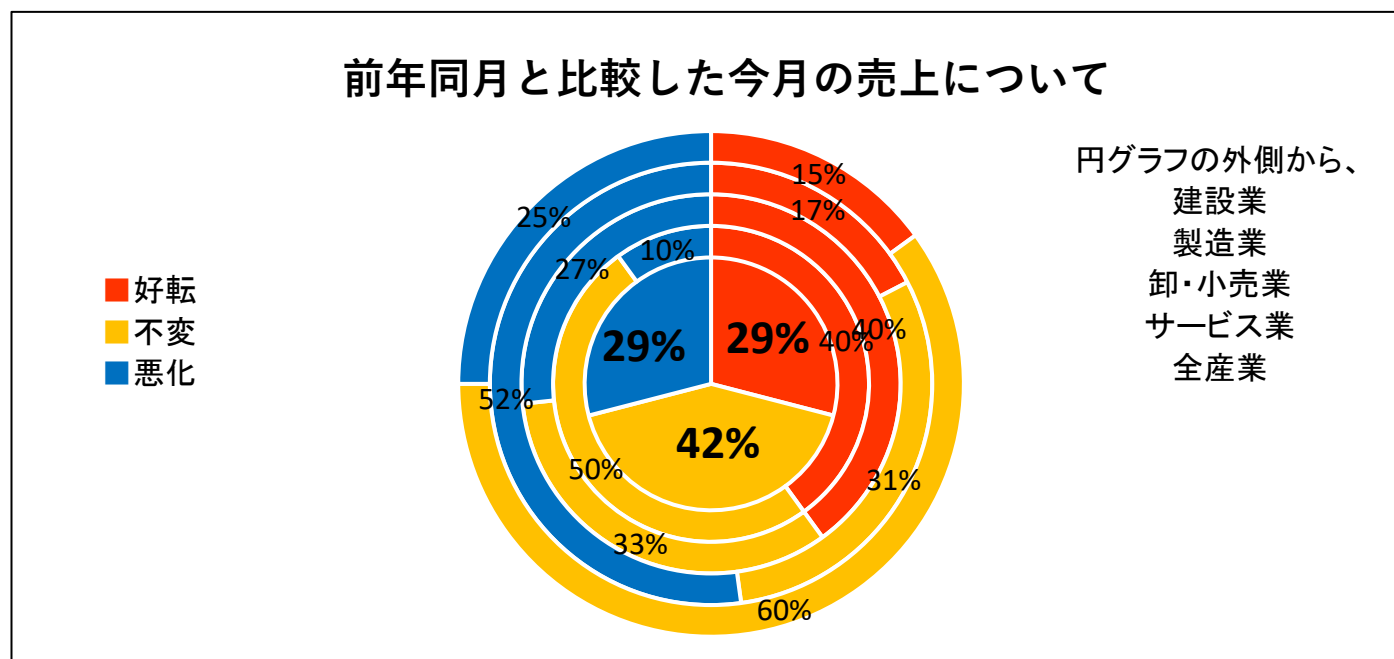
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

	令和5年						先行き見通し
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月～9月（6月～8月）
全産業	▲16.5	▲18.8	▲8.7	▲11.3	▲6.2	▲7.5	▲16.1（▲1.0）
建設	▲26.3	▲21.0	▲20.0	▲25.0	▲20.8	▲10.0	▲10.0（△8.3）
製造	▲8.3	▲27.7	△4.1	▲20.0	▲14.8	▲21.7	▲30.4（▲7.4）
卸・小売	▲32.4	▲30.3	▲18.7	▲11.5	▲3.3	▲20.0	▲23.3（▲13.3）
サービス	△8.6	△10.0	±0.0	△11.7	△26.6	△30.0	△5.0（△20.0）



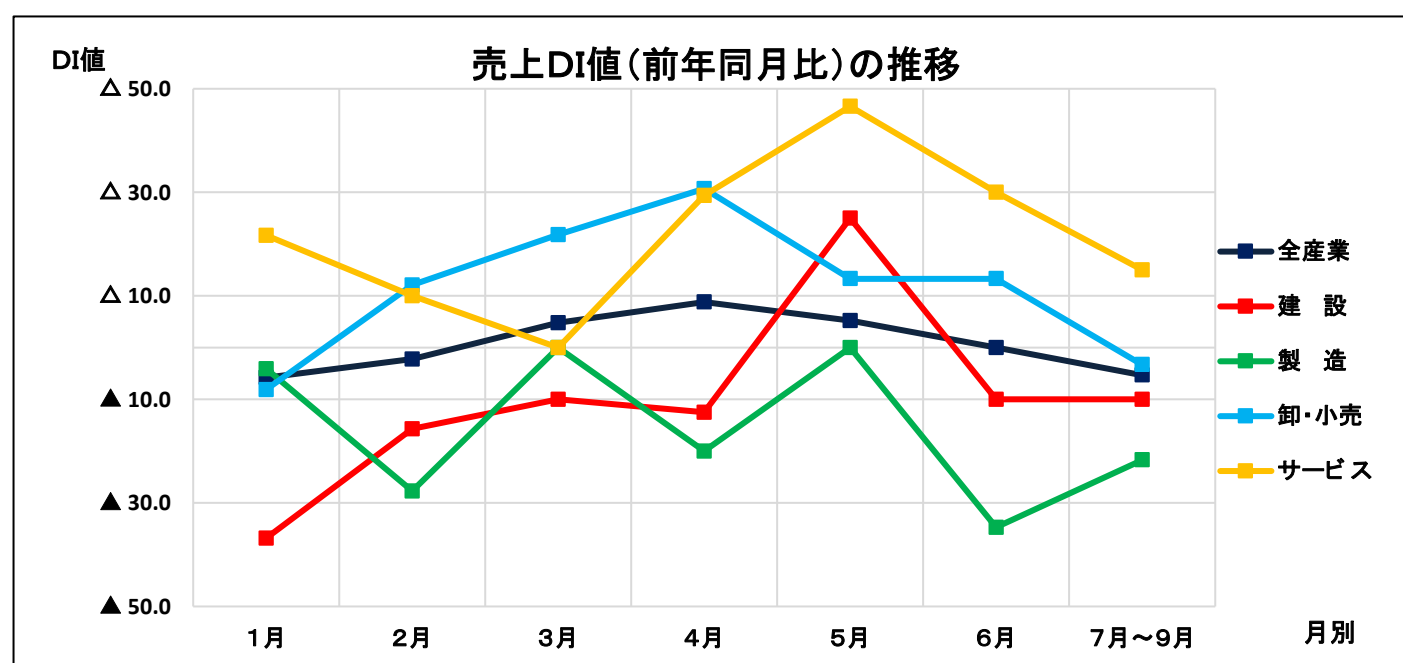
【売上について】

- 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、±0.0（前月水準△5.2）となり、プラス幅が5.2ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（7月から9月）の先行き見通しについては、全産業では、▲5.3（前月水準△7.2）となり、マイナス幅が12.5ポイント拡大した。



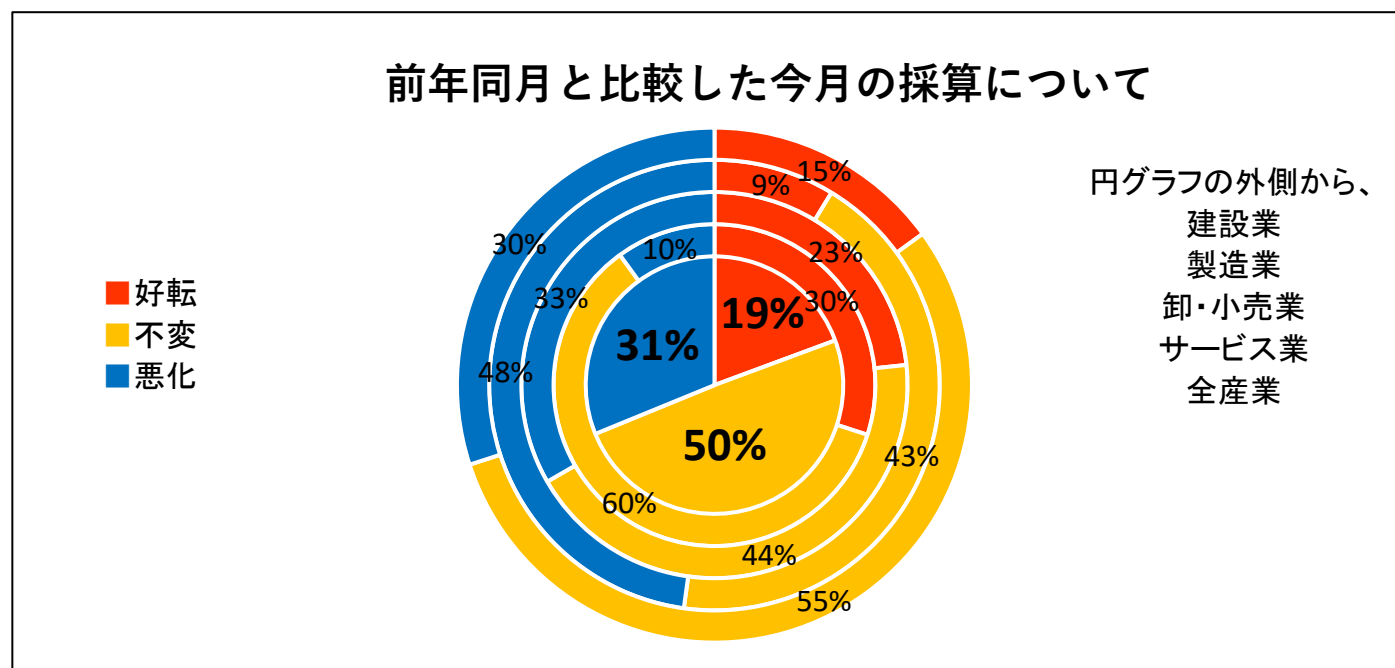
売上DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「増加」の回答割合－「減少」の回答割合

	令和5年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月～9月（6月～8月）
全産業	▲5.8	▲2.2	△4.8	△8.8	△5.2	±0.0	▲5.3（△7.2）
建設	▲36.8	▲15.7	▲10.0	▲12.5	△25.0	▲10.0	▲10.0（△8.3）
製造	▲4.1	▲27.7	±0.0	▲20.0	±0.0	▲34.7	▲21.7（△7.4）
卸・小売	▲8.1	△12.1	△21.8	△30.7	△13.3	△13.3	▲3.3（±0.0）
サービス	△21.7	△10.0	±0.0	△29.4	△46.6	△30.0	△15.0（△20.0）



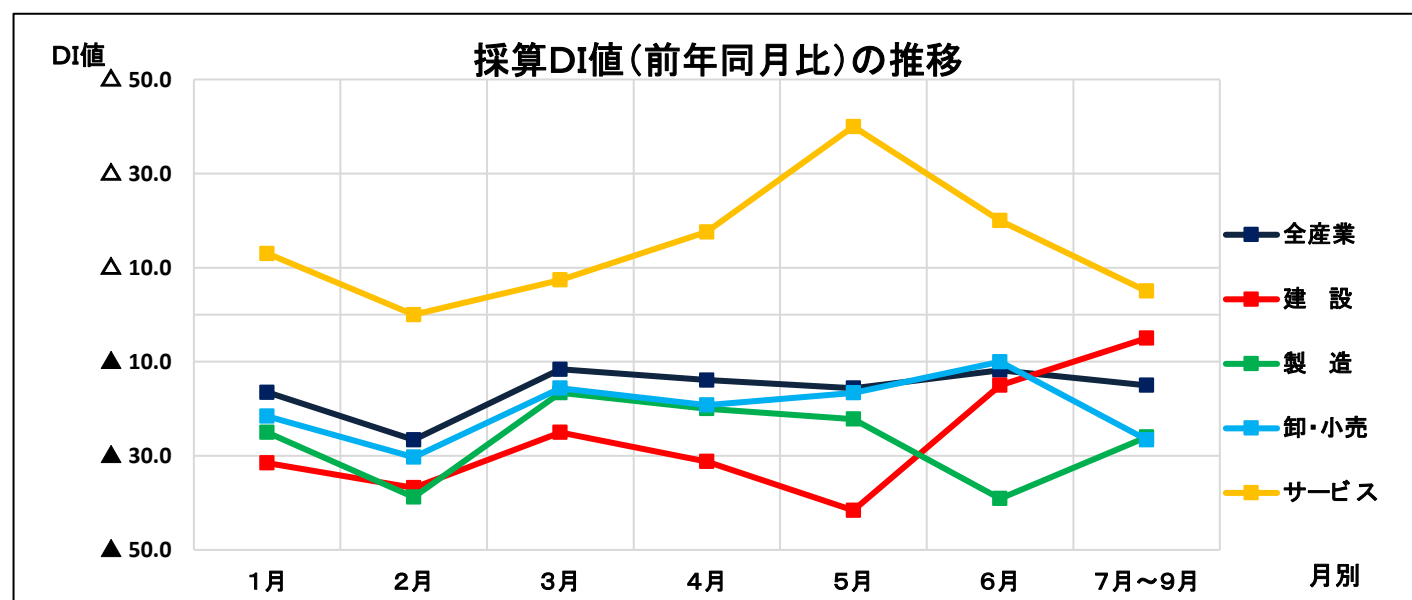
【採算について】

- 6月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.8 (前月水準▲15.6)となり、マイナス幅が3.8ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.0 (前月水準▲2.0)であり、マイナス幅が13.0ポイント拡大する見通しである。



採算D I 値 (前年同月比) の推移 ※DI=「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

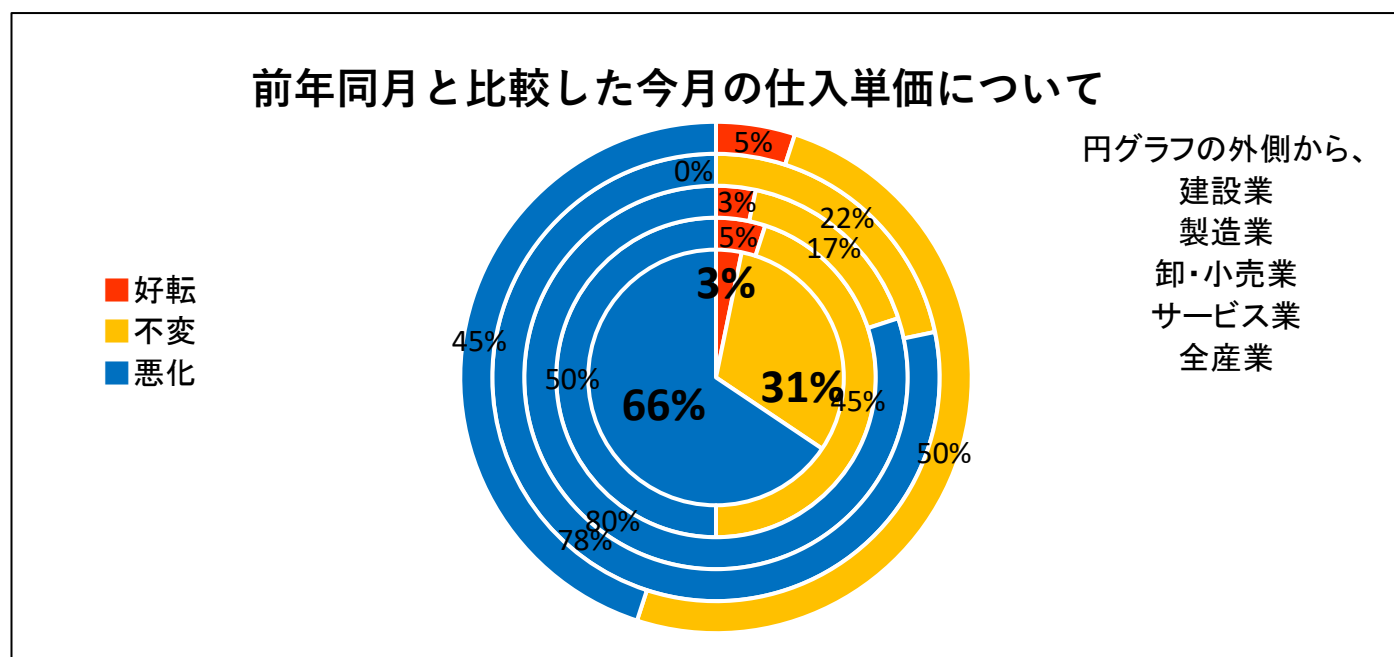
	令和5年						先行き見通し
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月～9月 (6月～8月)
全産業	▲16.5	▲26.6	▲11.6	▲13.9	▲15.6	▲11.8	▲15.0 (▲2.0)
建設	▲31.5	▲36.8	▲25.0	▲31.2	▲41.6	▲15.0	▲5.0 (±0.0)
製造	▲25.0	▲38.8	▲16.6	▲20.0	▲22.2	▲39.1	▲26.0 (±0.0)
卸・小売	▲21.6	▲30.3	▲15.6	▲19.2	▲16.6	▲10.0	▲26.6 (▲16.6)
サービス	△13.0	±0.0	△7.4	△17.6	△40.0	△20.0	△5.0 (△20.0)



【仕入単価について】

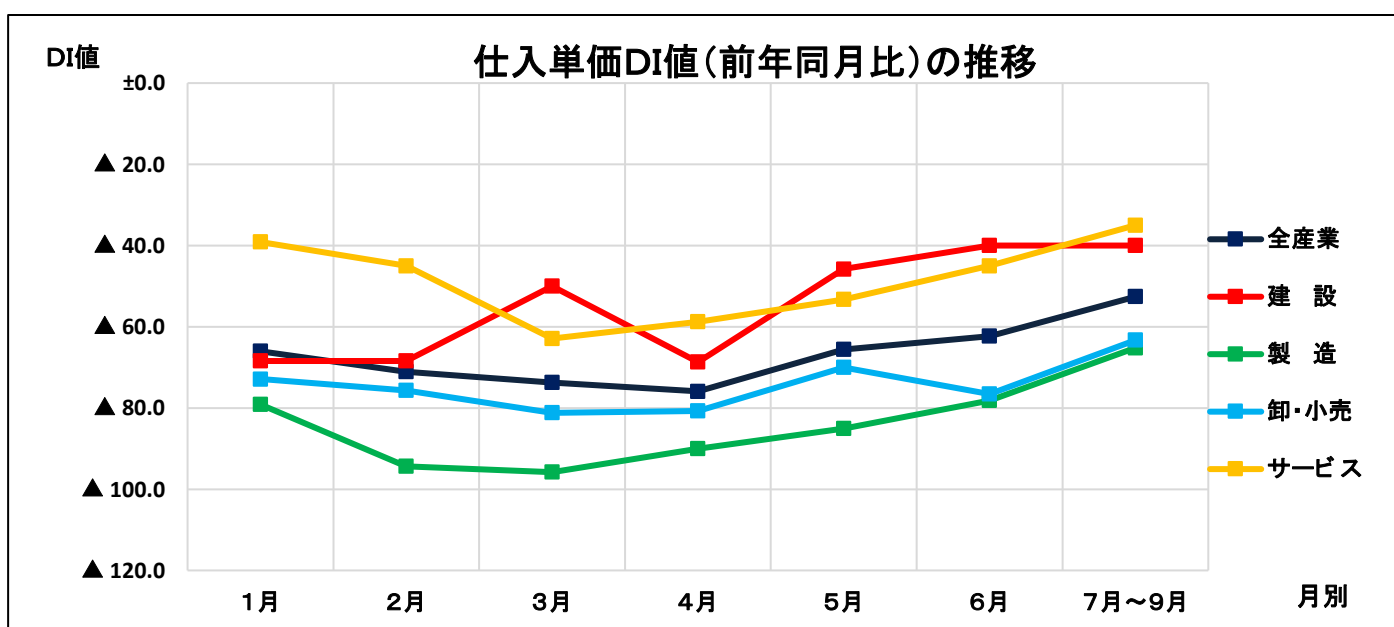
○ 6月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲62.3 (前月水準▲65.6)となり、マイナス幅が3.3ポイント縮小した。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲52.6 (前月水準▲59.3)となり、マイナス幅が6.7ポイント縮小する見通しである。



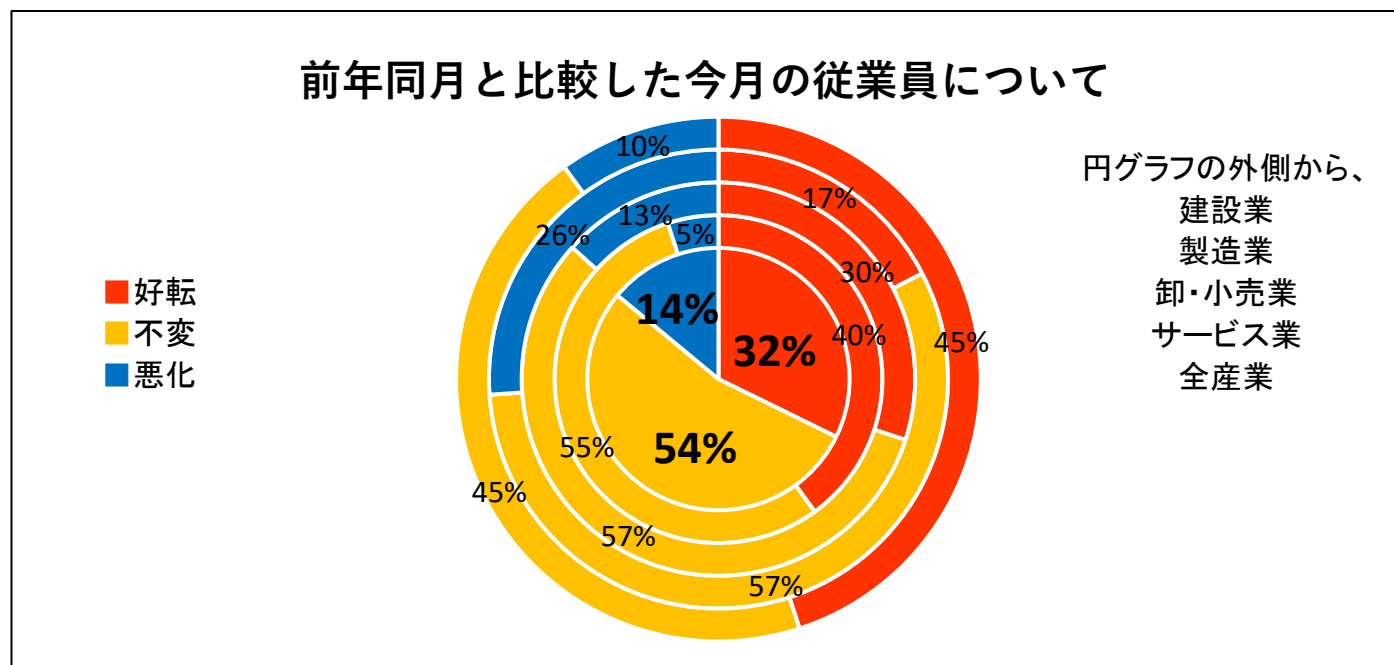
仕入単価D I 値 (前年同月比) の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	令和5年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月～9月 (6月～8月)
全産業	▲66.0	▲71.1	▲73.7	▲75.9	▲65.6	▲62.3	▲52.6 (▲59.3)
建設	▲68.4	▲68.4	▲50.0	▲68.7	▲45.8	▲40.0	▲40.0 (▲41.6)
製造	▲79.1	▲94.4	▲95.8	▲90.0	▲85.1	▲78.2	▲65.2 (▲70.3)
卸・小売	▲72.9	▲75.7	▲81.2	▲80.7	▲70.0	▲76.6	▲63.3 (▲73.3)
サービス	▲39.1	▲45.0	▲62.9	▲58.8	▲53.3	▲45.0	▲35.0 (▲40.0)



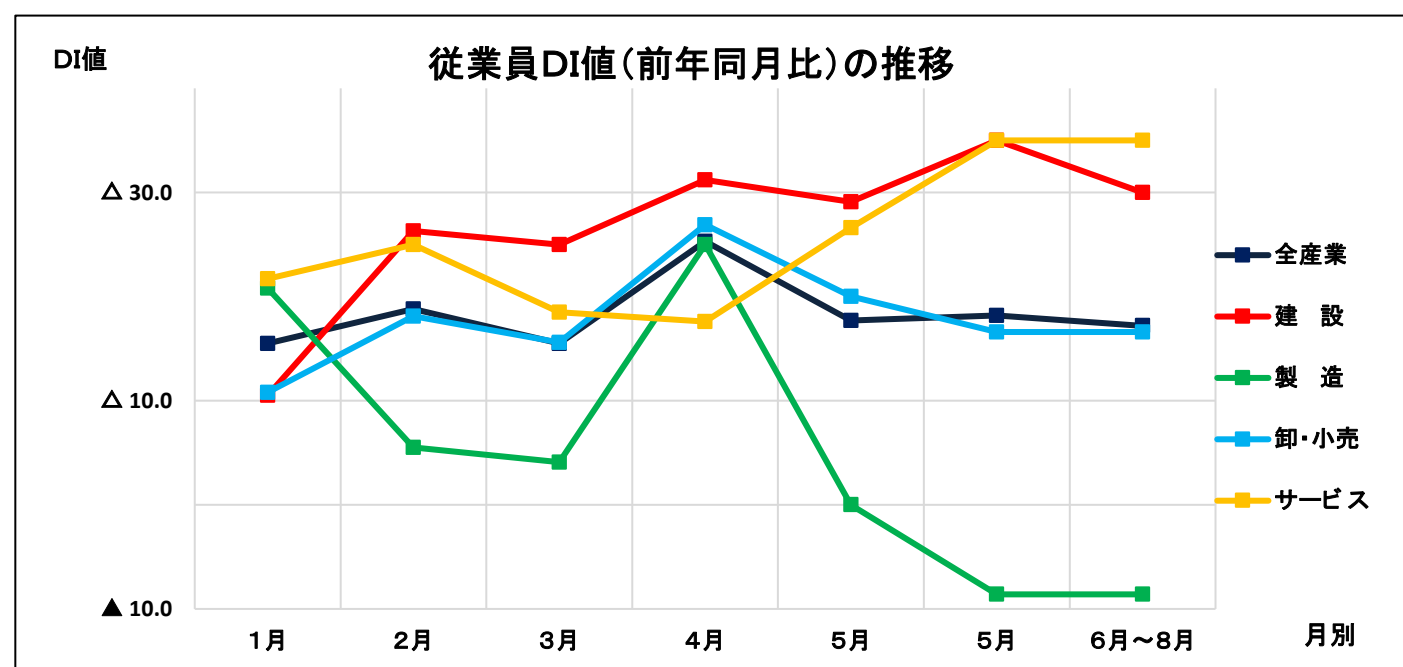
【従業員について】

- 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△18.2(前月水準△17.7)となり、プラス幅が0.5ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、△17.2(前月水準△23.9)となり、プラス幅が6.7ポイント縮小する見通しである。



従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

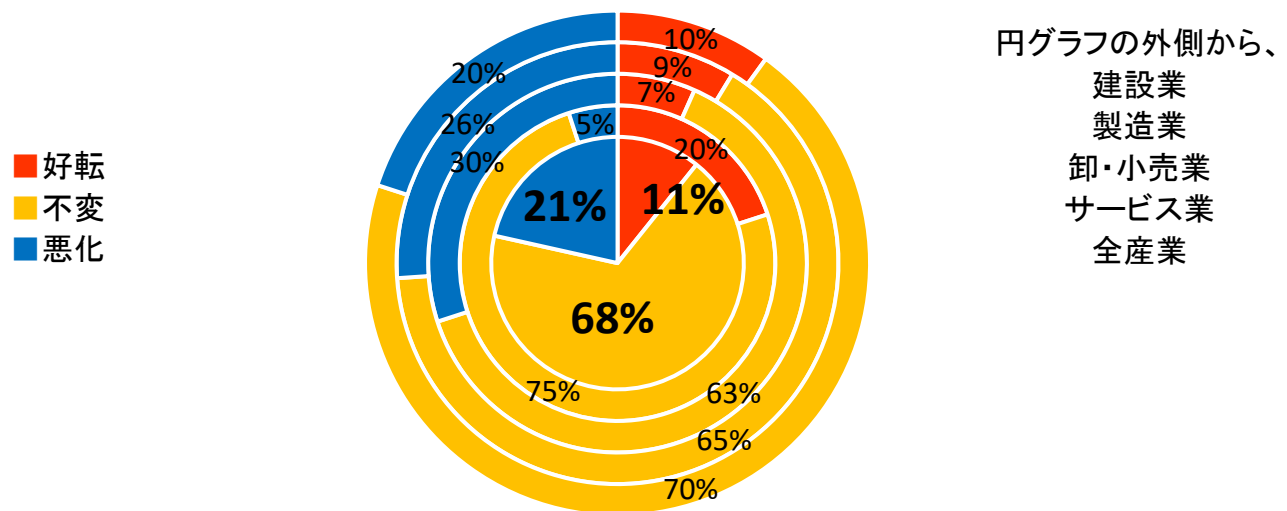
	令和5年 1月	2月	3月	4月	5月	5月	先行き見通し 6月～8月(6月～8月)
全産業	△15.5	△18.8	△15.5	△25.3	△17.7	△18.2	△17.2(△23.9)
建設	△10.5	△26.3	△25.0	△31.2	△29.1	△35.0	△30.0(△37.5)
製造	△20.8	△5.5	△4.1	△25.0	±0.0	▲8.6	▲8.6(△11.1)
卸・小売	△10.8	△18.1	△15.6	△26.9	△20.0	△16.6	△16.6(△23.3)
サービス	△21.7	△25.0	△18.5	△17.6	△26.6	△35.0	△35.0(△26.6)



【資金繰りについて】

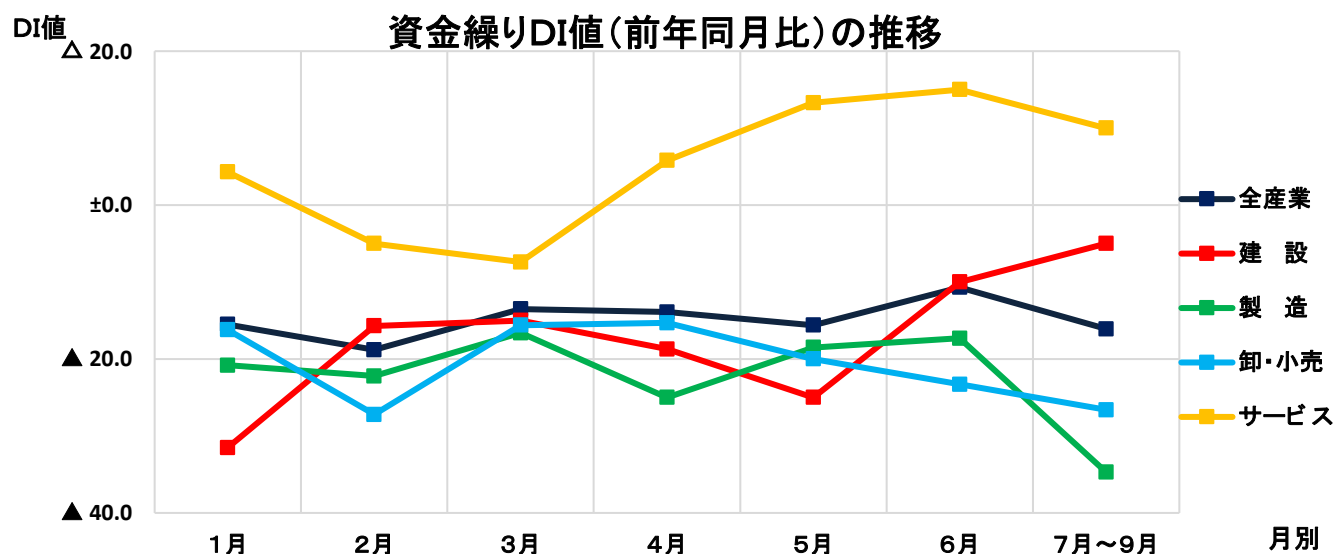
- 6月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.7 (前月水準▲15.6)となり、マイナス幅が4.9ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16.1 (前月水準▲12.6)となり、マイナス幅が3.5ポイント拡大する見通しである。

前年同月と比較した今月の資金繰りについて



資金繰りD I 値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和5年						先行き見通し
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月～9月(6月～8月)
全産業	▲15.5	▲18.8	▲13.5	▲13.9	▲15.6	▲10.7	▲16.1 (▲12.6)
建設	▲31.5	▲15.7	▲15.0	▲18.7	▲25.0	▲10.0	▲5.0 (▲6.2)
製造	▲20.8	▲22.2	▲16.6	▲25.0	▲18.5	▲17.3	▲34.7 (▲20.0)
卸・小売	▲16.2	▲27.2	▲15.6	▲15.3	▲20.0	▲23.3	▲26.6 (▲19.2)
サービス	△4.3	▲5.0	▲7.4	△5.8	△13.3	△15.0	△10.0 (±0.0)

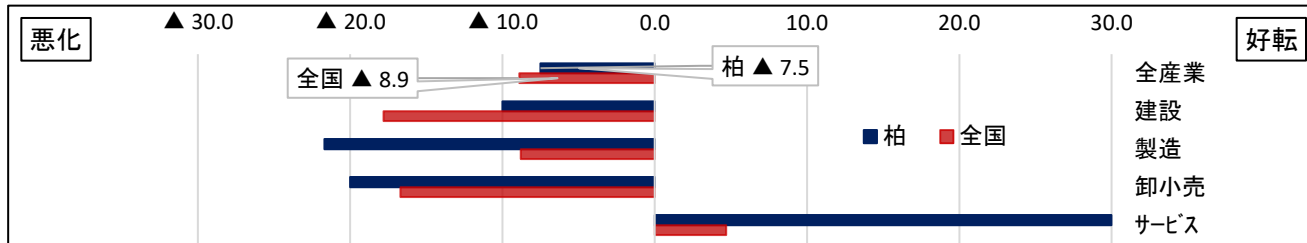


全国（CCI-LOBO）との比較

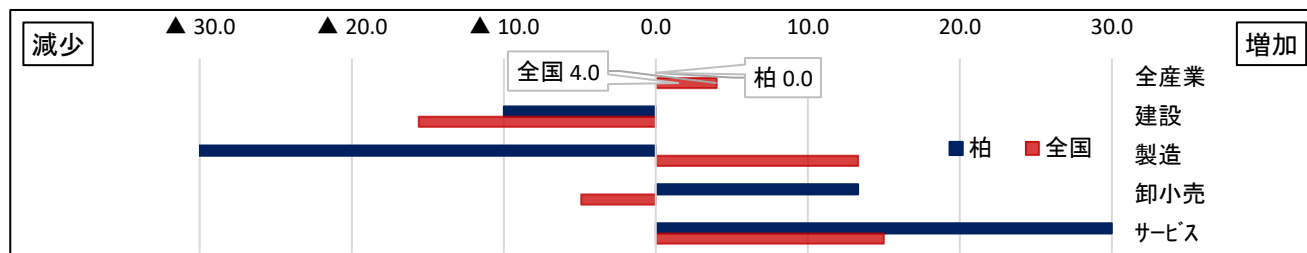
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

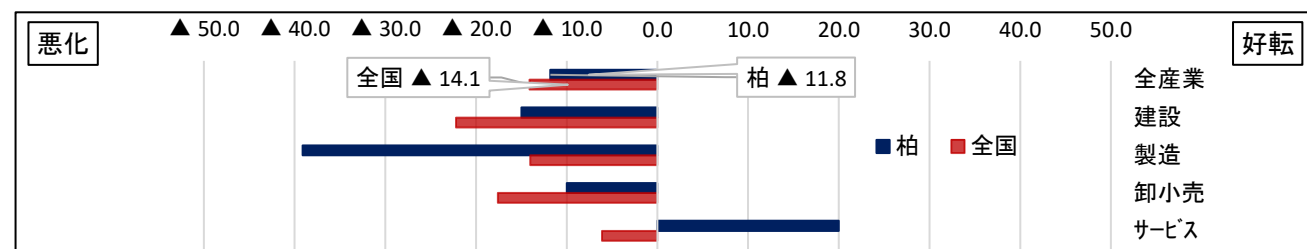
【業況DI】



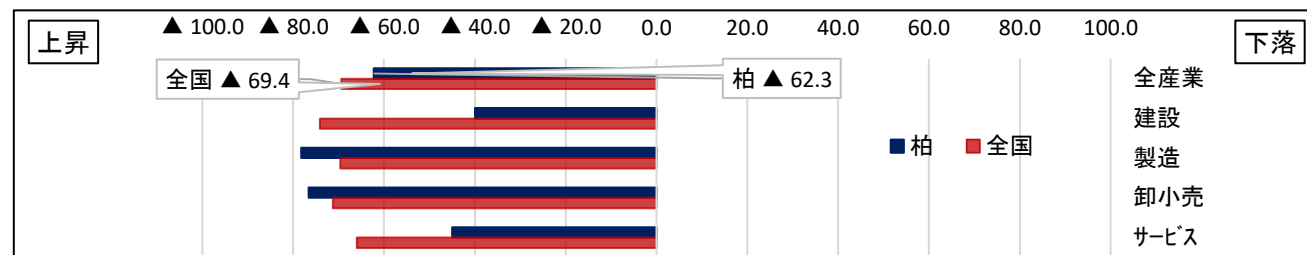
【売上DI】



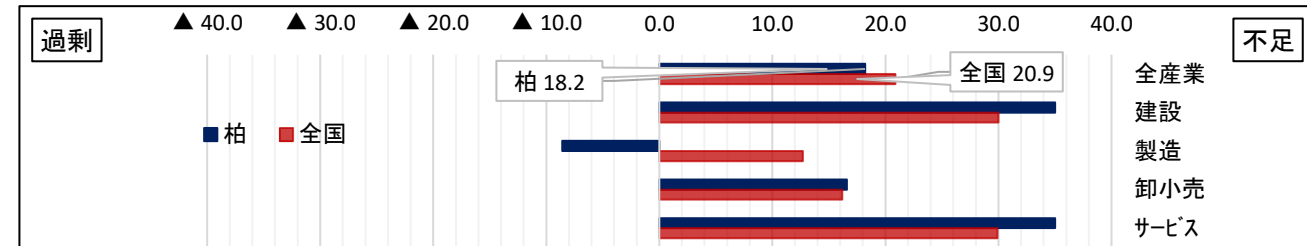
【採算DI】



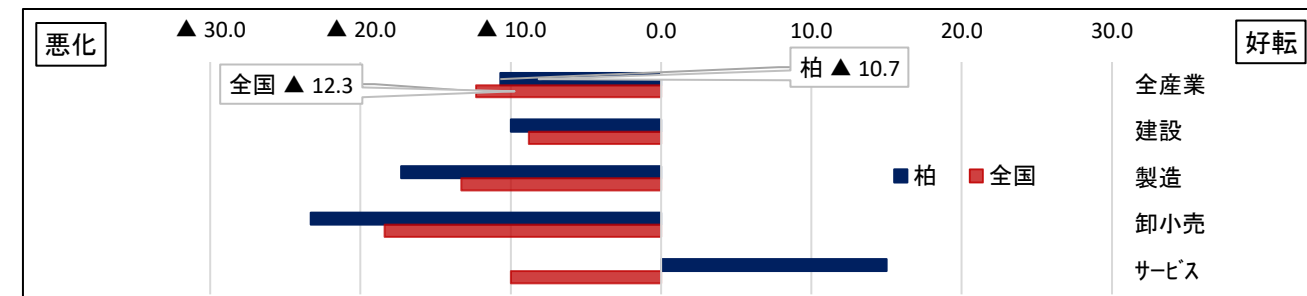
【仕入単価DI】



【従業員DI】



【資金繰りDI】



【業種別】 業界内トピックス

業種別	概 況	業 種
建設業	各方面からの仕事の受注が増加。これまで大手や、大規模修繕を専門としている業者が受注していた案件が、施工業者に直接発注している流れがコロナ前と違い変化しているように感じる。材料費の高騰により、発注者の負担が大きくなり、大手施工会社に発注すると工事価格が大きく膨れ上がることを懸念されているようにも感じる。 建設業界では、令和5年10月に石綿建材含有の事前調査の義務化が本格化するため、発注者に負担がかかることが見込まれる。それ以降の発注傾向を今後注視する必要があると考えられ、建設業者の中にはその資格を取得している会社でなければ調査結果の報告（厚労省へ）ができないなどの条件があることを知らないところもかなりあるように感じる。建設業会は直接的な関係があるのは国土交通省、建設業法などになるが、石綿に関しては厚生労働省、環境省の管轄のため縦割り行政の弊害が出ているように思える。	塗装工事業
	原材料高騰、生コンプラントが忙しく、1か月先までいっぱいである。	一般土木建築工事業
	ボーナスシーズン到来で、畳工事の受注増。 並びに米粉カフェが出来た影響で、人の流れが変わり、畳小物売り上げが先月に引き続き増加。	畳工事請負・畳製造販売業
製造業	受注は堅調なものの仕入単価の上昇が止まらない状況で利益が減ってきている。	その他の機械・同部品製造業
	医療品容器の受注に勢いはあるが、化粧品容器に関しては相変わらず低迷したままである。特に8月は各社夏休みに入るので大幅な受注減になりそうで、影響が最小限にとどまるように準備中である。	プラスチック加工
	景況が悪化している要因としては、依然としてコロナ禍からの完全な景気の回復が見られない事、半導体不足、原材料や副資材、人件費などの高騰が挙げられます。	電子応用装置製造業
	新型コロナウイルス感染症の第5類への引き下げおよび同業他社の秋の値上げ発表による影響もあり、国内の需要が高まってきた。また引き続き輸出も好調であり、製造数量も大幅に増加しているため、人で不足が懸念されるため契約社員等の募集を行っている。	酒類製造業
	仕入・電力ともに高騰、利益を圧迫。 CO2削減は急務など問題が山積み。	金属素形材製品製造業
	資金繰りについては、数値判断が主であるが、今までとは異なって、結果銀行の対応が厳しくなって、息継ぎが苦しい状況である。	印刷業
	柏地域での動きが活発になった影響で、瞬間風速だが売上高増加になった。	印刷業
	・先月、先を見込んだ以上に製品の需要の伸びがなく厳しい状況 ・ユーザーの過剰在庫がまだ残留おり、数か月は厳しい ・コストの圧縮が必要	その他の鉄鋼業

【業種別】業界内トピックス

	仕事を依頼していた業者が廃業となり代わりにお願いしたところがまだ軌道に乗らず納期遅れが生じている。資金繰りや高齢化で今後廃業していく取引先の代替業者選びも重要になる。	金属製品
	製品によっては、電気料金や原材料費の急激なコストアップに対する価格転嫁が遅れていて、収益を圧迫している。迅速な値上げを指示しているが、客先によっては認めてもらうのに難航している。インボイス制度や電子帳簿保存法等への対応でコストアップになってきているので、管理部門を含めた会社全体の生産性の更なる向上が不可欠となっている。	自動車付属品製造業
卸・小売業	初夏物の動向が良い。食品は価格に非常に敏感。父の日は母の日と動向は同じで宅配が減少した。	大型小売店
	イベント等への客足も回復傾向。夏休みシーズン突入で、人の移動が活発になる季節のため、需要の取り込みに努める。	大型小売店
	原材料高騰に伴うテナント収支の圧迫、小売りをはじめとしたサービス業の人手不足継続、外出機運の高まりに伴う消費動向の変化による業況改善の停滞	その他の各種商品小売業
	継続的な原材料の値上げにより厳しい状況が続いている	洋菓子店
	アパレル、雑貨、旅行関連は継続して堅調に推移。度重なる値上げの影響もあり、カフェ、職雑貨関連が鈍化傾向。	百貨店
	引き続き個人消費としては上昇傾向にあるが、人件費・光熱費・仕入値等の上昇が続く。	その他の各種商品小売業
	年末から来年初めに掛けて訪れる米国の景気後退の影響が、日本を含む世界経済にどれだけの影響を与えるかを見極める必要が秋以降に出てくるだろう。	
	海外の状況が悪すぎるのが引き続き継続しています。円安のおかげで多少は助かっていますが、円高だったらリーマンショック並みに厳しかった気がします。 他業種の皆さんも徐々に影響を受けるのでは？ただうちも今のところ国内事業は堅調です。	
	6月になって少しずつ新規の問い合わせが出てきた。学校の期末テストの結果を見てから塾を探し始めるため、この時期に大胆なキャンペーンも行う予定。	学習塾
	資材の高騰や建築費の上昇、不動産価格の上昇等により、一般顧客からの問い合わせが減少している。それにより、売買件数も減ってきている。全体として低調。	不動産管理業
	サービス業の人手不足深刻	日本料理

【業種別】 業界内トピックス

	売上 不変状態。顧客決済がすろー状態。	ソフトウェア業
	コロナ禍ではオンラインサービス中心であったが、5類移行後は対面型サービス中心に戻した。	専門サービス
	現在見えるように、国の規制緩和や留学生受入政策は改善されれば、業界全体として景況は上昇するに違いありません。	専修学校
	制限なしによる外出増加で売上は戻りつつある。この需要増を逃したくないため人材確保を進めているが、厳しい状況が続いている。	ホテル

調査要領

回答期間

令和5年6月20日 ～ 令和5年7月6日

調査対象

柏市内143業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	143	93	65.0%
建設	34	20	58.8%
製造	36	23	63.9%
卸・小売	42	30	71.4%
サービス	31	20	64.5%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり进行を意味する。

DI = （増加・好転などの回答割合） - （減少・悪化などの回答割合）

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調 	好調 	まあまあ 	不振 	極めて不振 